

～ホーカー・ハリケーン(Hurricane) Mk.I



[↓スピットファイアと]



本機、ホーカー・ハリケーンは、1940年のバトルオブブリテン(英国の戦い)で活躍した戦闘機です。同戦争を描いた映画「空軍大戦略」ではスピットファイアだけが登場したせい、ハリケーンが存在が忘れられがちですが、当時、ハリケーンによるドイツ空軍機の撃墜数は、スピットファイアのそれ以上であり(スピットファイアの42%に対して、ハリケーンは55%：英文ウィキペディア「**Hawker Hurricane**」の項)、同戦場において忘れてはいけない主役でした。両機とも同じロールスロイス・マーリンエンジンを搭載しているながら、並べてみると、その外観は大きく異なります。デザイナーはシドニー・カム、この前に傑作・ハート軽爆撃機を設計し、戦後もハリヤー戦闘機の基礎形状を考案した名デザイナーで、鋼管布張りの胴体など古い構造ではあったものの、ヘビーデューティーで使い勝手のよい機体を作り出しました。本機は、北アフリカ戦線で戦闘爆撃機として使われたほか、カタパルトで射出できるように貨物船に搭載されましたが(CAM-SHIPと呼ばれる。戦闘の後、海上に不時着してパイロットのみ回収された)、いずれも、本機の頑丈な構造があつてのことです。なお、左翼上面にある小さい黄色のパッチは、毒ガス探知用のパッチで(毒ガスに触れると変色する)、当時、ドイツ軍が空戦においても毒ガスを使用するのではないかと危惧していたからのようです。第1次世界大戦時、地上戦において毒ガスに苦しめられた英国らしい仕様でありました。

【模型について】

ポーランドのアロマホビー(ARMA HOBBY)製の1/72の新しいキットです。ポーランドは祖国がドイツに占領された後、同国空軍のパイロットが英国に亡命し、英国空軍の一員として戦います。それだけに、ポーランドは、自国の機体と同じぐらい英国空軍の機体は親しみがあるようで、ディテールなどとてもよくリサーチされた秀作です。(中川裕幸 2021年10月)